



9784757433977

ISBN978-4-7574-3397-7
C0080 ¥1900E



1920080019008

7/1138

定価 本体1,900円+税

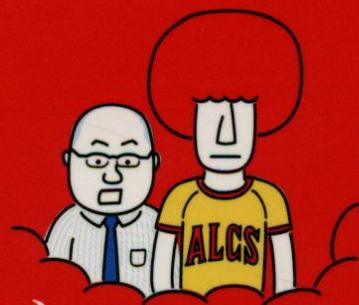
第1章 通訳業界のしくみ

第2章 通訳者への道

第3章 実況中継! 通訳の現場から

第4章 選ばれる通訳者になるために

第5章 激変する環境をサバイブする



関根マイク (せきね・まいく)

会議通訳者・翻訳者。関根アンドアソシエーツ代表、日本会議通訳者協会 (JACI) 理事、日本翻訳者協会 (JAT) 元副理事長、全米司法通訳人・翻訳人協会 (NAJIT) 会員。ブリティッシュコロンビア大学文学部卒業。大学卒業後に帰国し、沖縄サミットを契機にフリーランス通訳者・翻訳者としてのキャリアを始める。得意分野は政治経済、法律、ビジネスとスポーツ全般。月刊『ENGLISH JOURNAL』(アルク) で「通訳の現場から～ブースの中の懲りない面々～」を連載中。著書に『同時通訳者のここだけの話ープロ通訳者のノート術公開ー』(アルク) がある。

Twitter: @mikesequine

ブログ: <http://blogger.mikesequine.com/>

通訳というおしごと

発行日 2020年2月21日 (初版)
著者 関根マイク
編集 株式会社アルク 出版編集部
編集協力・校正 崔正熙、古里学

装丁・本文デザイン 早坂美香 (SHURIKEN Graphic)
イラスト タラジロウ
DTP 新井田晃彦 (有限会社共同制作社)、鳴島亮介
印刷・製本 萩原印刷株式会社

発行者 田中伸明
発行所 株式会社アルク
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-6 市ヶ谷ビル
Website: <https://www.alc.co.jp/>



落丁本、乱丁本は弊社にてお取り替えいたしております。
Webお問い合わせフォームにてご連絡ください。 <https://www.alc.co.jp/inquiry/>

本書の全部または一部の無断転載を禁じます。
著作権法上で認められた場合を除いて、本書からのコピーを禁じます。
定価はカバーに表示してあります。
製品サポート: <http://www.alc.co.jp/usersupport/>

©2020 Mike Sekine / ALC PRESS INC.
Jiro Tara
Printed in Japan.
PC: 7019082
ISBN: 978-4-7574-3397-7

地球人ネットワークを創る



アルクのシンボル
「地球人マーク」です。

業界の明るい未来が切り拓かれるのですから。

さて、謝辞を忘れてはいけません。

遅筆な私をあの手この手で鼓舞し、最後まで粘り強く導いてくれたアルクの編集担当、美野貴美さん。私の乱雑な思考を整理し、読みやすくまとめてくれた編集者の古里学さん。通訳者の吉田理加さん、白倉淳一さん、石井悠太さん、中村いづみさん、平山敦子さん、橋本佳奈さん。そして実務者視点で内容を精査し、貴重なアドバイスをしてくれた崔正熙さん、蛇川真紀さん、米田恵さん、藤野裕子さん、中井智恵美さん、佐々木勇介さん、諸橋佳子さん、フランソワーズ・モローさん。誰ひとり欠けても本書は成立しませんでした。

みんな、ありがとう！

関根マイク

今後私には会議通訳者として力ある限り活動を続けていきますが、同時に次の世代に知識を継承するステージにも踏み込んでいくつもりです。私に通訳を直接教えてくれた先生や師匠はいませんが、先輩通訳者が執筆した数多くの書籍・論文に私は間違いなく学び、影響を受けました。

本書はある意味、私なりの業界への恩返しです。今後は通訳の仕事そのものが劇的に変化するかもしれないので、一〇年後には本書の内容が色褪せてくる部分もあるかもしれませんが、クライアントに求められ続ける通訳者のエッセンスは変わらないと確信しています。

本書の究極的な目的は、通訳を「結び目をつくる仕事」として読者に意識してもらおうことだと「はじめに」で書きました。実はこの結び目は、通訳者とクライアントをつなぐ結び目であると同時に、通訳者と通訳者をつなぐ結び目でもあります。読者のみなさんには本書で、そして現場で学んだ知識を、同世代の仲間や次の世代に伝えてほしい。同じミスを何度もする必要はないですし、結び目を一つひとつ増やし、強化していくことで、通訳

おわりに

本書を執筆中、特に最後の「撤退する勇気を持つ」を書き始めた時期、私は数年ぶりのスランプに苦しんでいました。

クライアントから苦情がでるほど酷いパフォーマンスをしたわけではありませんが、いつものように表現が頭にすぐ浮かばなかったり、文脈から話の先読みがうまくできなかつたりした現場が何度かありました。

どんな仕事にもスランプはありますが、それが長く続くと仕事が減っていきますし、そもそも長続きするスランプはもはやスランプではありません。「技術の劣化」という厳しい現実です。今回は幸い、準備の仕方と休養の取り方を見直すことで復調しましたが、私の通訳者としての寿命はあと何年あるのだろうかと改めて考えるようになりました。

日本手話通訳士協会に問い合わせてみてください。

訳者協会など)。ネットワークキングに励み、共に技術を磨いてください。

一般社団法人 日本会議通訳者協会 <https://www.japan-interpreters.org/>

現役の通訳者が運営している日本最大の実務通訳者団体。会員限定の記事や動画コンテンツが豊富で、イベントも毎年開催の「日本通訳フォーラム」をはじめ、国内各地で開催しています。新人通訳者向けに国内唯一の「同時通訳グランプリ」も運営。

特定非営利活動法人 日本翻訳者協会 <https://jat.org/ja/>

一般社団法人 日本翻訳連盟 <https://www.jtf.jp/>

一般社団法人 日本手話通訳士協会 <http://www.jasli.jp/>

日本会議通訳者協会と比べると活動頻度が低いのですが、日本翻訳者協会は通訳分科会がありますし、日本翻訳連盟も通訳イベントをたびたび開催しています。加えて、本書では音声通訳（声に出す通訳）を取り扱いましたが、手話通訳に関心がある方は

通訳・翻訳ブック <https://thbook.simul.co.jp/>

株式会社サイマル・インターナショナルが運営するウェブマガジン。世界各地の通訳事情や同時通訳術、声の使い方などに関するコンテンツがあります。

ハイキャリア 通訳の仕事 <https://www.hicareer.jp/inter>

株式会社テンナイン・コミュニケーションが運営。エッセイやインタビュー系のコンテンツが多いのですが、その中でも吉岡余真人の「通訳者のための現場で役立つ同時通訳機材講座」はすべての同時通訳者が読むべき連載だと思えます。

通訳団体

業界の「今」についてもっと知りたいのであれば、実務者が集まるコミュニティに所属するのが一番の近道です。全国をカバーしているのは日本会議通訳者協会のみですが、地方で活動している通訳団体などもあります（新潟県通訳翻訳協会や北海道通

あり面白い。

通訳情報サイト

二〇年前、ネット上に通訳に関する情報はほとんど存在しませんでした。今では少しずつ増えています。数十万円の学費を支払って通訳学校に通う前に、力試しに参加できる単発の通訳セミナーやワークショップも頻繁に開催されるようになったので、ネットで情報を集めて有効活用してください。

通訳翻訳WEB <https://tshon.jp/>

季刊誌『通訳・翻訳ジャーナル』とムック本『通訳者・翻訳者になる本』を出版しているイカロス出版株式会社の業界情報サイト。連載コラムに加えて、スクールや業界団体が開催している通訳関係のセミナーやイベントのリストが便利です。

『不実な美女か貞淑な醜女（ブス）か』（米原万里著、新潮文庫）

ロシア語通訳者でエッセイストの故・米原万里の処女エッセイ。通訳という仕事を社会一般に広めた作品と言って過言ではないでしょう。読み物としての完成度が高く、翻訳・通訳をキャリアとして考えている人はもちろん、そうでない人も楽しめませう。

『同時通訳者のことだけの話』（関根マイク著、アルク）

自著を推すのも気恥ずかしいのですが、日英通訳者のリアルな日常や思考を知りたいければ本書はお勧めできます。読みやすいように軽いタッチで書くことを意識したので、他の通訳本よりはあまり疲れずに（笑）読めると思います。

『通訳とはなにか』（近藤正臣、生活書院）

通訳を異文化コミュニケーションという切り口から解説した本。第2章の「会議直前にどんな準備をするのか」や「実際のブースの中では」は、私が字数の都合で本書に書けなかった詳細にも踏み込んでいます。通訳者の報酬に関しても具体的な数字が